

# 冬晴れの矢板を駆ける

小柴 滉平

第34回筑波大学オリエンテーリング大会 2015年1月25日 栃木県矢板市

晴天に恵まれた中、新規トレインをミドルで堪能。地域密着と先進性も印象的。

2015年1月25日 栃木県矢板市  
第34回筑波大学オリエンテーリング大会

結果

- M20A
- 1 国沢 楽 0:38:33 桐朋 IK
  - 2 川田 将太 0:39:12 Kaname Club
  - 3 原万 尋 0:42:05 桐朋 IK
- W20A
- 1 宮本和 奏 0:33:19 京葉 OL クラブ
- M21A1
- 1 佐藤雄 太郎 0:37:27 東北大 OLC
  - 2 滝川真 弘 0:39:34 東北大 OLC
  - 3 松下睦 生 0:40:09 京大 OLC
- M21A2
- 1 寺垣内 航 0:36:42 京葉 OL クラブ
  - 2 福井悠 太 0:38:06 東京大学
  - 3 堀田 遼 0:39:35 鞍部同好会
- W21A
- 1 皆川美 紀子 0:37:25 みちの会
  - 2 守屋舞 香 0:37:56 椛山女学園大学
  - 3 宮川早 穂 0:42:24 東大 OLC
- M35A
- 1 藤生考 志 0:39:14 東京 OL クラブ
  - 2 美濃部 篤 0:43:37
  - 3 桜井剛 0:44:53 ES 関東クラブ
- W35A
- 1 宮川祐 子 0:44:21 ES 関東 C
- M50A
- 1 杉本光 正 0:39:19 ES 関東クラブ
  - 2 齋藤英 之 0:43:03 川越 OLC
  - 3 荒井正 敏 0:45:56 多摩 OL
- W50A
- 1 植松裕 子 1:10:15 入間市 OLC
- MB
- 1 羽生和 史 0:27:45 筑波大学 OL 愛好会 OB
  - 2 佐藤郷 0:29:29 筑波大 OL 愛好会'02
  - 3 山川大 貴 0:35:28 東農大三高 OL 部
- WB
- 1 長友美 子 0:35:41 OC WOODS
- N・G
- 1 吉田洋 介 河原陽子 0:07:47
  - 2 美濃部 駿 0:07:58
  - 3 藤城ま ゆ美 藤城龍之介 0:08:18  
藤城佑梨 藤城稜平



コース設定者のお気に入りであるM35A/OAのコース図。他のクラスでは使われなかったトレインの南端まで贅沢に楽しめた。

## 久々の大会は満員御礼

第34回筑波大大会は筑波大学オリエンテーリング部にとっては久方ぶりに山で開く本格的な大会であった。大会運営の経験も乏しく、暗中模索で準備を進めていた私たちにとって、どれだけエントリーが来るのか、不安で仕方がない日々は続いた。

しかし、ふたを開けてみれば事前の申し込みは368名！当日申し込みも併せれば最終的に参加者は439名と驚きの結果に。矢板の新規トレインであり、春インカレに向けたクラブセレクションに使われることもあってか、予想外の大盛況となった。

## 芸術的なコンタ表現

本大会の舞台となった新規トレイン「矢板山苗代」の調査は(有)ヤマカワオーエンタープライズに委託した。山川氏の多忙により地図作成が遅れ、運営者としては冷や冷やすることもあったが、大会まで1週間を切ったことに無事(?)完成した。

肝心の出来栄だが、試走のたびに少しずつ修正していただいたこともあって概ね好評であった。山川氏による“分り易い芸術的なコンタ表現”を楽しんでいただけたようだ。

また、本大会では新規のエリアだけであったが、今後は矢板幸岡の南側と接合される予定で、塩谷で行われる春

インカレの練習用トレインとしても期待されている。著作権は日本学連が持っているのを利用のお問い合わせはそちらへどうぞ。

そして何よりもコースが好評であった。「テクニカル」「スピーディなコースセット」「緩急があり面白い」「反省点の出てるいいコース」との声をアンケートにて頂いた。詳しくは以下に続くコース設定者のコメントを読んでいただきたい。

## これがミドルだ

春インカレを1ヵ月半先に控えていたことから、ミドルディスタンスのコースを提供した。矢板トレインではあるが比高が小さくならかな地形をしているため尾根走りをするようなレグは少ない。南側は走行可能度が高い一方で北側は場所によっては藪が発達している。

コースは前半爽快で難易度が低めであったが、中盤以降は走行可能度が落ち難易度が上がるというように設定した。いかにトレインの変化に合わせて切り替えていくかもレースの中で重要なポイントとなっている。全体としては緩やかな斜面に方向への意識が問われるレグが組まれ、スピードのある中でのナビゲーションが試された。

(コース設定者 村瀬貴紀)



視界が良い場所がある一方、藪や倒木に苦しめられるときもあった。

## もう一つの新規トレイン

実は「矢板山苗代」の裏でもう1つの新規トレイン「川崎城跡公園～ともなりの城～」が誕生していた。この地図は体験会でのみ使用されたのでご存知の方は少ないであろう。

当初は体験会も「矢板山苗代」で行う予定であったが、子供たちが歩いていくには距離があったため会場近くの川崎城跡公園に場所を変更した。

この公園は川崎城の跡地を市が整備した公園であり、城の湯温泉センターの南西に位置している。緩急のある斜面が広がっており、総じて見通しは良いトレインである。

結果として、体験会は親子を中心に17組(37名)に参加いただき、盛況に終わった。また、矢板市在住の方にも参加いただき嬉しい限りである。

なお、今回は矢板市に特別に許可を頂き、貴重な文化財である川崎城跡公園を使わせていただいた。今後は、文化財保護の観点から地図の販売や配布は行わないことが決まっている。

## 新しい試みを次々と

新しかったのはトレインだけではなく。本大会は様々な面で新しいことに挑戦していた。

その一つは何といっても、Twitterによる広報と演出だろう。大会公式のアカウント(@tsukuba34th)では要項やプログラムの公開・更新だけでなく、過去の筑波大大会や矢板の耳寄り情報をこまめに発信し、当日は会場の実況を行った。また、ハッシュタグ「#筑波大大会」をつけて感想をつぶやいてほしいと呼びかけ、参加者のつぶやきを会場内のスクリーンに投影したところ、300件を超えるつぶやきがあった。会場の雰囲気づくりに一役買っていたといえるだろう。

他にも広報や演出、地元密着の協賛、全コース図の展示など自分たちのアイデアを次々と取り入れていった。

## にぎわう表彰式

オリエンテーリングの大会は表彰式に注目を集めにくい、という声をたまに耳にするが、本大会の表彰式はそれを覆した。

運営のミスにより開始が遅れたものの、矢板市公式キャラクターともなりの登場により場は盛り上がり、表彰式は始まった。

50名以上の参加者が見守る中、入賞者は賞状と賞品である矢板市の特産品を手にとまなりくんと記念写真をパチリ。34位特別表彰の対象者が帰ってしまう一幕があったものの、終始にぎやかな表彰式であった。

## 感謝の気持ちを忘れずに

オリエンテーリングの大会はたくさんの理解と協力の上に成り立っている。このことを私たちは大会運営を通じて、特に地元渉外において実感した。

この地区での大会は前例がなかったにも関わらず地元の皆様には開催を快諾いただき、矢板市役所からは後援だけでなく、川崎城跡公園の利用、ともなりの出演、道路への看板設置など多くの面でサポートいただいた。また、矢板ゆかりの企業7社からは初めて伺ったにも関わらず、協賛として多数の商品や割引券を頂いた。

オリエンテーリングは地元との良好な関係が欠かせないスポーツである。私たちに大会を開く機会と学びを与えてくださった矢板の皆様改めて感謝の意を述べたい。

## まだまだ残る課題

成功ばかりではない。本大会はいくつもの反省と課題を残した。

まずクラスをM/W50Aまでしか設けていなかったことが挙げられる。地域クラブに所属せず、オリエンティアといえば大学生のイメージしかなかった私たちはベテラン層を意識したクラス設定ができていなかった。

続いて、地図やEカード、防寒具の返却、表彰式の開始がいずれも遅れ、スクリーンに速報を映せなかったことが挙げられる。準備不足を痛感するところとなった。

そして、矢板市在住の方の参加がわずか1組(2名)に留まったことが大きな反省点だ。市内各所にポスターを貼っていただき、川崎小の全校児童に紹介冊子を配布したものの、時期が遅かったことなどが原因と考えられる。

これらの課題を見過ごすことなく、次なる大会運営に活かしていきたい。

## 新機軸事業第3弾

本大会は日本学連による新機軸事業の第3弾であった。この事業を利用すれば日本学連が地図調査代を支払い、著作権を持つ代わりに、大学クラブは地図を購入する。大学クラブから見れば通常より安価で地図調査を委託できる



銘菓に地酒、米など豪華な賞品。

ような形になるのだ。私たちはこの事業なくして今この時に大会を開くことはできなかっただろう。

第4弾の大会も控えているらしい。この事業を含め、大学クラブによる大会運営の行方にも注目してほしい。

## それでも大会運営は楽しい!

ここには書ききれないほど、筑波大学オリエンテーリング部(旧愛好会)にとって6年ぶりの山での大会は苦難の道のりであった。しかしコントローラの高野氏の助力やクラブ員の頑張りにより無事に終えることができた。

楽しかった。自分たちも大会を開きたいと思いついてからの約1年半、皆で唯一無二の大会を作り上げたこの時間は決して無駄ではなかったろう。クラブ内にもいい刺激を与えたようで、第35回大会の開催が決まり、対抗戦のコース設定に意欲的に取り組む姿も見られる。大会運営からもオリエンテーリングを楽しむ、そんな雰囲気が続いていけば良いと思う。

## 次の世代へ活かそう

私たちは本大会で運営ノウハウを蓄積した。これらをクラブ内に留めるのはもったいない。報告書にまとめ、マニュアルや収支などと併せてウェブ上で公開する予定だ。鋭意準備中であるので、ご期待いただきたい。

## 再びの筑波キャンパス

第35回筑波大大会は秋の大型連休最終日、9月23日(水)に3年ぶりに筑波大学にて開催される。国内最大規模のキャンパスで繰り広げられるスプリントとリレーをぜひお楽しみに。

(実行委員長 小柴滉平)



調査は委託せず自分たちで行った。門外不出となった今はウルトラレア?